

創立20周年記念誌

越谷市の美しい街づくり

— 景観十年、風景百年、風土千年 —



越谷市役所屋上から葛西用水・しらこぼと橋を望む（提供：越谷市）

2007年4月

越谷市街づくり協調会

創立20周年記念誌 もくじ

1. 記念誌出版によせて	1
2. 記念対談『越谷市の美しい街づくり』 越谷市副市長 関根勤氏：越谷市街づくり協調会会長 若色欣爾氏	2
3. 特別インタビュー『越谷市街づくり協調会に何を期待するか！』	22
村上逸郎氏、田中大郎氏、佐藤好利氏、高松裕氏 武藤繁雄氏、斉藤秀夫氏、荒井秀雄氏	
4. 20年間の活動経歴（沿革と勉強会のテーマ）	31
5. 最近の活動内容（平成13年度～平成18年度）	32
6. 第3期長期計画（平成19年度～平成28年度）	37
7. 会則	38
8. 会員名簿	42
9. あとがきにかえて	43

記念誌出版によせて

越谷市街づくり協調会
会長 若 色 欣 爾

当会は昭和61年に発足し、今年度で創立20周年を迎えました。この節目にあたり当会の20年間のあゆみを振り返り、今後の課題を考えてみました。当会のあゆみを大きく分けると、前期の第1期と後期の第2期となり、今後の10年を第3期として考えてみました。

● 第1期 昭和61年～平成7年度（1986～1995）

当会は昭和61年4月に住宅産業経営懇話会（以下「住産懇」という。）の分科会として発足し、当初は越谷市と官民協力したまちづくりを推進するため、開発指導要綱の運用に関する勉強を中心に行ってきました。この開発指導要綱には法的な拘束力がなく、企業のモラルによるところが多く、行政も人的交流を通して、越谷市のまちづくりや、民間業者の事情を相互に理解する必要があった時期でもありました。

● 第2期 平成8年～平成17年度（1996～2005）

この期間は、開発指導要綱の条例化に伴い、行政主導型のまちづくりから誘導支援型に移行し、開発に関する行政指導の内容も変化してきました。従って当初の目的であった官民間の交流を優先することよりも、会員間の懇親及び情報交換としての役割が強くなってきました。また、住民・行政・開発者の協働のまちづくりにおいて企業のあり方を探る勉強会となってきました。組織的にも、平成11年6月に住産懇から独立し、会則の変更を行い、2001年1月には「越谷市街づくり協調会15年のあゆみ」を発行しました。

● 第3期 平成18年～平成27年度（2006～2015）

これからの第3期は、越谷市においてはレイクタウンを代表とする区画整理事業を中心とした街づくりが完成する時期にきております。今後、名実とも埼玉県東南部における中心都市として評価してもらえるためには、住環境に配慮した美しい街づくりを推進する必要があると考えております。また、人口減少社会が到来し都市が淘汰される時代になり、安全・安心で快適に暮らすことができる魅力のあるまちのみが生き残っていくと言われております。

当会としても越谷市の住環境に関する価値を高め、ひいては良好な住宅地としてのイメージアップに貢献することを目指したいと考えます。

住環境に配慮した美しい街づくりは、住宅産業に携わっている企業が社会的責任（CSR）という視点からも積極的に推進すべきですが、現実には短期的な成果のみが優先されてきた感があります。越谷市においては、開発指導要綱により6m道路の整備が進み一定の成果を上げてきましたが、景観に配慮した美しい街づくりは法令だけの規制では限界があります。今後は市民・行政・事業者の三者が協働したまちづくりが重要になり、まさに第3期の課題はこの仕組みをいかに創っていくかが問われております。

今回の本誌制作を機に、関根副市長との対談や、武藤副市長を初めこれまでお世話になった方々にインタビューを行い、当会に対して多くのご意見やアドバイスをいただきました。これらを通し、当会の目標がより鮮明になったことを感謝すると共に、その責任の重さを感じております。

当会にとって、第3期は新たなステージですが、この船出にあたり、本誌が今後の官民協調した街づくりの羅針盤となれば幸いです。

平成19年4月